

北海道医歌人会詠草

崩壊感覚

鉏路 兎玉 昌彦

血なま臭き事件・次々・豊かさのかけからのぞく崩壊感覚
理由なき殺しとうつの閉塞感・自らを生かす道失いて
自分さえ現在さえよければそれでよいゲームとドラマの仮想空間
町から町・家から家へ野火のごと拡がり狂わす「心の疫病」
智慧の実を喰らいしヒトの業なりや大量殺戮・悔いることなく

我が友 前田利明(1)——再会 北広島 古屋雅三知

二十年音信絶えしともなれば此度こそはと心に決めて
電話する 九州全ての裁判所 小倉に在りとの情報を得たり
学会の演題終わるを待ち切れず 疾やる気を持って小倉へ向かう
これが汝か 筋肉質の面影はなく瘦せ細りたる術後の身体
腹膜に播種こそ在らぬ 汝が言葉遠くに聞こゆ 訝の如く

霽切る

函館 水関 清

向日葵は子ども等が好き 花迷路 親惑はせる思わぬ出口
兜の子 前の座席に座らせて 漕ぎ出す自転車いざ幼稚園
銀ドロの万の葉裏に 光あり 賢治も見上げし青空に透く
七段の師匠 降せし平手戦 あれから十年いまや七冠
廃駅の連なる海辺 根室線 麦秋明るき十勝野過ぎて

生化学

士別 竹内 幹夫

炊き立てのご飯に卵掛けし時 ぐずれてしまふ世のエントロピー
白身立て後から黄身を掬ふとき 膜の全き掌に感じつつ
遣伝子の乗り物なれど僕の身は バケツ一杯君に嵩高
盈ち満ちて原始の海に放たれし 寄る辺無き卵虚し漂ふ
赤き血に核失いし人類が 殺戮兵器にそを積む悲し

猫はすごい

滝川 村田 英俊

値引きなど百も承知と言いたげにベットシヨップの年増の猫は
やれるのにやれぬ振りする猫の芸やったら更に求めるを知る
じやれつくもプイとどこかへ 気まぐれがモフモフとして猫になりたり
できたての友の魚拓にミシユランの猫なら評価は足あと四つ
野良猫と「だるまさんがころんだ」をやれば肉球のない僕の負け

夏

江別 三宅 浩次

北国の短い夏の楽しみは一斉に咲く庭の花々
アジサイは紫陽花とも書きかえる土の香りで七変化する
遠い国のウクライナの空は青でなく火花を散らす赤色の空
独裁者の頭の中は侵略の文字に溢れて余裕などない
犠牲者は兵士ではなく平凡な暮らしを送る女子や子どもら

シャクナゲ

札幌 浜島 泉

過年より花色麗し この年の庭のシャクナゲ肥しの効きめ
食残を大量に埋め年越えて 盛りし花の艶を讃へつ
若葉前 山肌に見る趣は桜とコブシ春紅葉なり
バスに乗り敬老優待席に坐す 前の生徒の制服まぶし
またしても五月病か気が晴れぬ 花山菜は盛りといふに